

京都大学瀬戸臨海実験所水族館の濾過槽に大量出現したベニクラゲムシ (有櫛動物門, クラゲムシ科)

久保田 信*・田名瀬英朋*・太田 満*

Shin KUBOTA, Hidetomo TANASE, Mitsuru OHTA: Mass appearance of *Coeloplana willeyi* (Ctenophora, Coeloplanidae) in a filter tank at the Kyoto University Aquarium of the Seto Marine Biological Laboratory

田辺湾周辺海域から記録されている有櫛動物門は5目10科11属16種である(久保田, 1996)が, それらのうちで成長するとベントスの一員となるクラゲムシ科では, ベニクラゲムシ *Coeloplana willeyi* ABBOTT が和歌山県白浜町の番所崎や島島の磯の潮間帯および潮間帯直下の転石の裏側にしばしば見られる(久保田, 未発表)。ところが, 今回, 京都大学水族館の循環用濾過槽で, 本種の大量発生が初めて生じたので報告する。

出現場所と出現数

瀬戸臨海実験所水族館第2水槽室の地下1階に設置された4系統5槽の循環用濾過槽のうち中央の3槽(第2, 3系統)に出現した。コンクリート製の各槽の大きさは同じで, 縦5.8 m, 横1.7 m, 深さ0.75 m。各槽に中央を縦走する循環海水分散用の塩化ビニール製の散水路があり, 常に海水を散水させて溶存酸素の低下を防止している。濾過用の細砂(18年前より交換無し)は35 cmの厚さに敷き詰めてある。濾過槽を設置した部屋は地下

室の奥深くにあり, 通常は点灯されずほぼ暗黒だが, 点検・洗浄時のみ蛍光灯で照明する。洗浄(逆洗)は平均月1回実施している。

3槽への出現個体数は, それぞれ566(第3系統), 0(第2系統北側), 102(第2系統南側)。濾過砂上にも多数個体が見られたものの, 水槽の壁面(図1), 特に通路側よりの角(ほぼ直角)に集中していた。なお, 各々の濾過槽に接続している4系統の貯水槽には出現していない。

出現時期

大量出現をみた1998年12月23日にごく少数個体を採取した(この時は3槽に出現)。同年12月29日にできるだけ全個体を採集し上記のように全個体数を出した。この時は, 第2系統北側では確認されなかった。その後, 第3系統では1999年4月末に大量発生時の状態に復帰し, これ以降, 1999年8月下旬まで多数の個体数が維持されている。

形態および無性生殖

本種は和名の如く体全体が鮮やかな紅色で, 濾過槽出現個体は野外で見られるものと同色である。光の強弱や有無による色彩変化がおこっていないものと推察される。濾過槽出現個体の中に野外のものより大型個体があり, 比較的良好に伸長した状態で体長30 mmに達した。

最大個体を一週間ほど飼育したところ, 3個体に分裂した。また, 他の大型の複数個体もすべて分裂した。恐らく今回の大量出現は分裂によるものであろう。

由 来

本種は意図的に採集飼育したものではなく, 他の採集物などに付着していた少数個体が飼育槽から濾過槽へ流入し, 自然繁殖したと推察される。

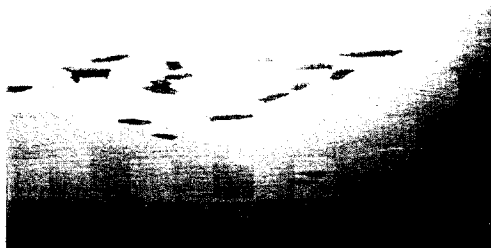


図1 京都大学瀬戸臨海実験所水族館の循環用濾過槽の壁面に付着するベニクラゲムシの多数の個体。

Fig. 1. Many individuals of *Coeloplana willeyi* attached to walls of a filter tank supplying water to the Kyoto University Aquarium at the Seto Marine Biological Laboratory.

* 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所(〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町) Seto Marine Biological Laboratory, Graduate School of Science, Kyoto University, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan

謝 辞

本種の発見に際し貴重な情報を下さった檜山嘉郎氏と
山本泰司氏に深謝する。

引 用 文 献

久保田 信. 1996: 田辺湾周辺海域の腔腸動物 有櫛動
物門. 瀬戸臨海実験所年報, 9, 34-36.
